ロバート・キヨサキ氏がどんな困難に対してもあきらめる事が出来ない理由と「教育の一環として小学校で見せるべきものは何？」

おしゃべり異種格闘技　論破王と言う議論を行うバラエティ番組にて、「教育の一環として小学校で見せるべきものは何？」と言う議題がありまして、今回の動画ではこの議題に対して私なりの意見を述べさせて頂きます。

国内外問わず、私を含めた多くの人は、精神的に壊れやすい事が多いと思っています。それは、失敗から立ち直れない事であったり、困難を前にあきらめてしまう事であったり。しかし、人生の成功者の多くは、失敗を重ねて成功に辿り着いたり、あきらめずに困難を乗り越えてきたのを歴史は証明している。

そして、多くの学生は経済的でも人間関係でも、分野問わずと何かしらの成功を求めているのではないでしょうか？となると、成功するための基盤である精神的な強さを形成する事が大事だと思うわけです。

その一つの方法として、余命わずかの人と交流する事のが良いのでは？と思います。

とあるインタビューで著書「金持ち父さん貧乏父さん」で有名なロバート・キヨサキ氏はどんな事があっても絶対にあきらめる事が出来ない理由として「俺は他の人よりも遥かに人生においてアドバンテージがある。何故なら、俺は戦争に行った。戦争で何人もの仲間が死ぬのを見て、あきらめる事など出来ない」と。

現代で戦争に行けと小学生に言うのは無理がありますし、戦争のフィルムを見せるだけでは、親近感や個別感が無い。だからこそ、余命わずかの人と交流する機会を設けて、小学生に対して言ってもらうんです「私はもっと生きたかったけどそれは叶わない。私が生きたかった人生を私の分まで、無駄にしないで精一杯生きて下さい」と。

感情に訴えかける事に勝る論理は無い。